

31日 火曜

I サムエル



5:1 ペリシテ人は神の箱を奪って、エベン・エゼルからアシュドデまで運んで来た。
5:2 それからペリシテ人は神の箱を取り、ダゴンの神殿に運んで来て、ダゴンの傍らに置いた。
5:3 アシュドデの人たちが、翌日、朝早く起きて見ると、なんと、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。そこで彼らはダゴンを取り、元の場所に戻した。
5:4 次の日、朝早く彼らが起きて見ると、やはり、ダゴンは【主】の箱の前に、地にうつぶせになって倒れていた。ダゴンの頭と両手は切り離されて敷居のところであり、胴体だけがそこに残っていた。
5:5 それで今日に至るまで、ダゴンの祭司たちやダゴンの神殿に入る者はみな、アシュドデにあるダゴンの敷居を踏まない。
5:6 【主】の手はアシュドデの人たちの上に重くのしかかり、アシュドデとその地域の人たちを腫物で打って脅かした。
5:7 アシュドデの人たちは、この有様を見て言った。「イスラエルの神の箱は、われわれのもとにとどまってはならない。その手は、われわれとわれわれの神ダゴンの上に厳しいものであるから。」
5:8 それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員そこに集め、「イスラエルの神の箱をどうしたらよいでしょうか」と言った。領主たちは「イスラエルの神の箱は、ガテに移るようにせよ」と言った。そこで彼らはイスラエルの神の箱を移した。
5:9 それがガテに移された後、【主】の手はこの町に下り、非常に大きな恐慌を引き起こ

し、この町の人々を上のも下のもみな打ったので、彼らに腫物ができた。

5:10 ガテの人たちは神の箱をエクロンに送った。神の箱がエクロンにやって来たとき、エクロンの人たちは大声で叫んで言った。「私と私の民を殺すために、イスラエルの神の箱をこっちに回して来たのだ。」
5:11 それで彼らは人を遣わして、ペリシテ人の領主を全員集め、「イスラエルの神の箱を送って、元の場所に戻っていただきます。私と私の民を殺すことがないように」と言った。町中に死の恐怖があったのである。神の手は、そこに非常に重くのしかかっていた。

5:12 死ななかつた者は腫物で打たれ、助けを求める町の叫び声は天にまで上った。

ダゴンとはペリシテ人の偶像です。神様はご自身の力を表すために、あえてダゴンの像を破壊しました。神ご自身がその臨在を表すための神の箱が侮られないためです。

以前はこの神の箱がイスラエルにあり、それゆえにイスラエルが戦いに勝つものと信じられていましたが、神様はイスラエルの不信ゆえに勝利をお与えにはなりません。そして今はイスラエルの敵であるペリシテ人とその偶像に「大きな恐慌」を引き起こしたのです。

すなわち生きた聖なる神様は、偶像の神々のように、そこに安置すれば助けてくれるようなものではありません。また儀式を守ればご利益があるというようなものではないのです。生けるまことの神は、聖なる方であり揺るぎないご計画を持っておられます。その神の前にきよく生き、そしてご計画に従って生きる者が神様の恩恵にあずかることができるのです。

信仰生活が形骸化していないか、見かけや習慣だけで安心していないか考えてみましょう。生きた神様から恵をいただけるような信仰生活をして

いるかどうかを吟味してみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

